



ふれあい
市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

米国オハイオ州
セライナ市との国際交流

本市は、平成8年（合併前の旧南淡町）から継続して、米国オハイオ州セライナ市と国際姉妹都市提携を結んでいます。

今年度は、南あわじ市海外学生派遣団13名（うち引率者3名）が7月24日から11日間の日程で、ニューヨークとセライナ市を訪問し、ホームステイを中心とした国際交流を行いました。

8月17日、派遣団の帰国報告会がありました。参加した学生から「セライナ市の人たちの温かさを感じた。来年はセライナの人たちを温かく迎えたい」、「日本を客観的に見ることができた」、「最高の思い出になった。将来は海外で活躍できる人になりたい」などの発言があり、海外体験を通じて成長した姿を見ることができました。これまでも、派遣団に参加することで、視野を広げ、国際的な仕事を目指すようになった学生が何人もいます。加えて、自身の生い立ちや故郷のことを尋ねられ、日本や南あわじ市を見直す機会にもなったことと思います。

また、先月5日から6日間、セライナ市からヘーゼル市長、ヴァルツェル議員、クラウセン議員が南あわじ市へ来られま



セライナ市のホストファミリーと交流を深める海外学生派遣団

した。市長の本市訪問は初めてのことで。来訪団は、両市の交流が世代を越えて続くことを願い植樹を行ったほか、玉ねぎ加工、3年とらふぐ養殖場、瓦工場やタイル工場などへの視察、「淡路人形浄瑠璃」の鑑賞、「南あわじ市子ども議会」の傍聴など、市内各地で精力的に活動されました。淡路人形の繊細な動きに驚嘆し、ふぐの顔がかわいいと喜び、美しいタイルのデザインに見入るなど、南あわじの魅力が堪能されたと思います。懇談の機会には、子ども議会をセライナ市でも取り入れたいと話された他、淡路瓦をセライナ市の公共施設等で活用したい、農業分野での相互協力が出来ないか、など産業交流に強い関心を表明されました。



ヘーゼル市長と記念植樹

一般的に、国際姉妹都市提携に関し、日本側は若者の異国体験や文化交流を期待し、外国側は、産業交流など実利を求めるという傾向があり、少しずれ違う事例も見られます。双方が提携の意義を感じる関係づくりが必要と改めて感じるところです。

最後になりましたが、今回の学生派遣およびセライナ来訪団の受け入れにあたり、事前調整や歓迎行事の開催などにご支援ご協力をいただきました南あわじ市国際交流協会の皆様方、視察受け入れ等にご協力いただいた企業等の皆様方に厚く御礼申し上げます。

オープンキャンパス2018

吉備国際大学オープンキャンパスを開催します。キャンパス見学だけでなく、体験コーナーなどイベントも同時開催します。

受験生はもちろん、地域住民のみなさんの参加も歓迎しています。来場者にはお土産もあります。ぜひ足を運んで見てください。



オープンキャンパス学科紹介

日時 9月23日(日) 午前11時～午後4時
内容 学科紹介、学食体験、キャンパスツアー、体験コーナー、AO面談、在学生とのフリートークほか
学校法人順正学園入試広報室
☎0120 - 25 - 9944

9月開講講座 ※要申込・参加無料
地域創成生涯学習講座「醸造・発酵編」

場所 同大キャンパス内大講義室（C棟3階）
申込み・問合せ
同大地域連携センター ☎42 - 4708

- ①醸造食品は健康を増進する
日時 9月7日(金) 午前10時30分～正午
- ②身近な発酵産業
日時 9月14日(金) 午前10時30分～正午
- ③お酒は狂い水か百薬の長か？
日時 9月21日(金) 午前10時30分～正午



兵庫教育大学と連携し
学校経営力の向上と人材育成

兵庫教育大学と南あわじ市は、学校教育力向上において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に、連携協力に関する協定を7月23日に調印しました。

地域の活性化には学校の役割が大きく、市では「社会に開かれた教育課程」を構築し、特色ある学校づくりを進めるため、学校経営力の向上を目指しています。協定の締結により、同大学の教授等の講座を開催し、教育現場の管理職やミドルリーダー等の人材育成や、若手教員等の資質向上を図ります。また、同大学の学生および大学院生等の研修・実践の場として、市内の小中学校等を活用し、その成果をお互いに還元します。同大学の福田光完学長は、



協定書を手にする福田学長(右)と守本市長

「若い先生方の育成が大事。社会の変化に対処するため、マネージメント力を身に付けてほしい」と話していました。

社会を明るくする運動
ちびっ子おまわりさんが啓発

南あわじ市推進委員会は7月14日にショッピングセンター・シーパで、社会を明るくする運動の啓発イベントを行いました。イベントでは、倭文保育園・志知保育所の園児が警察官の衣装を着て、買い物等で訪れた人らに啓発グッズを配布。また、三原志知小学校和太鼓クラブ「志童」による演奏や、刑務所作業



来客に啓発グッズを配布する園児ら

製品展示即売会もあり、来場者でにぎわっていました。

南淡ライオンズクラブから寄付
防災・教育に活用



守本市長に寄付目録を手渡した南淡ライオンズクラブの元役員

6月に解散となった南淡ライオンズクラブから、津波避難の目印となる「宇宙校」の植樹に必要な事業費として250万円と、南淡地区の小学校5校に計100万円分の図書を送付いただきました。宇宙校は国際宇宙ステーション「きぼう」で保管され、地球に帰還した種子から成

長。宇宙空間を生き抜いた生命力を持つことから、復興のシンボルとして東日本大震災の被災地等に植樹されています。南あわじ市では、来春に苗木を譲り受け、植樹を行う予定です。同クラブの増井健二会長は「地域のために有効に活用してほしい」と話していました。

地震・豪雨被災地へ
市職員を派遣



被災地で家屋被害認定調査にあたる職員

大阪府北部地震と西日本豪雨の被災地に、南あわじ市職員を派遣しました。関西広域連合を通じて要請があり、7月2日～5日に大阪府茨木市へ、7月17日～21日と7月25日～27日に岡山県倉敷市へ、2人ずつ職員を派遣。罹災証明書の発行に必要な家屋被害認定調査を行いました。